

報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

平成 28 年 4 月 21 日 (木) 15:30~16:30 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

1. 挨拶

— 須藤 健一 (館長) —

2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 池谷 和信 (議長) —

3. 研究公演「黒森神楽×雄勝法印神楽 in みんなの公演」

[詳しくはこちら](#)

国立民族学博物館では、東日本大震災で被災した芸能支援の一環として、毎年館内で芸能を演じる「場」を設ける支援活動を続けています。今年は、岩手県、宮城県の神楽で、国の重要無形民俗文化財に指定されている黒森神楽、雄勝法印神楽の公演を行います。また、それぞれの神楽を調査している研究者も交えてパネルディスカッションを実施し、地域文化の重要性とその継承のあり方について考えます。

日時： 5月29日 (日) 13:00~16:00 (開場12:30)

場所： 国立民族学博物館 講堂

参加費： 要展示観覧券 (要事前申込 (5月11日 (水) 必着))

定員： 450名



黒森神楽

— 日高 真吾 (文化資源研究センター 准教授) —

4. 連続講座「みんなの×ナレッジキャピタル-世界の『台所』-」

[詳しくはこちら](#)

台所とは調理する場所、集めてきた食材が料理にかわる場所。もっと言えば、自然が文化になるところ。今回の講座では、世界のさまざまな「台所」について、お話しします。みんなの所属する6名の研究者と1名の名誉教授が紹介する、世界の暮らしの中の調理空間の話が、日本に住むわれわれの暮らしを見つめ直すきっかけになればと思います。

会期： 5月11日 (水) ~ 7月20日 (水) 全7回

場所： ナレッジキャピタル CAFE Lab. (グランフロント大阪北館1F)

※7月18日 (月・祝) はみんなの

参加費： 500円 (ドリンク代) / 要事前申込 ※7月18日 (月・祝) は無料

定員： 各回50名 (7月18日 (月・祝) みんなのツアーは定員30名)

主催： 国立民族学博物館、一般社団法人ナレッジキャピタル



ブタ肉を炒め、魚を炙り、ブタ肉を燻製にしている

— 櫻永 真佐夫 (研究戦略センター 教授) —

5. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

「仕事の人類学—労働中心主義の向こうへ」

(中谷文美・宇田川妙子 編/世界思想社)

— 宇田川 妙子 (民族社会研究部 准教授) —

「音楽からインド社会を知る 弟子と調査者のはざま」フィールドワーク選書

(寺田吉孝 著/臨川書店)

— 寺田 吉孝 (民族文化研究部 教授) —

「災害文化の継承と創造」

(橋本裕之・林勲男 編/臨川書店)

— 林 勲男 (文化資源研究センター 准教授) —

「仮面の世界を探る アフリカ、そしてミュージアム」フィールドワーク選書

(吉田憲司 著/臨川書店)

— 吉田 憲司 (文化資源研究センター 教授) —

6. 新任紹介

外資系民間企業での機会均等推進担当、フリーランス手話通訳・手話講師を経て、全国唯一の民間手話通訳養成校で手話通訳学科学科長を務めた。元NHK手話ニュースキャスター。民博でのミッションは、学術手話通訳者養成の実践、カリキュラム・環境作り。



— 飯泉 菜穂子 (先端人類科学研究部 特任准教授) —

筑波大学大学院で修士号(障害児教育)、その後イギリスで手話言語学のMphil(手話類型論)を取得。

主に日本手話および台湾手話など日本手話と歴史的に関係がある言語について、歴史社会言語学的観点から研究している。



— 相良 啓子 (先端人類科学研究部 特任助教) —

7. その他

3月3日の失火について

— 吉田 憲司 (副館長) —

※その他の配布資料

外来研究員受入一覧(資料6)、外国人研究員新規受入一覧(資料7)、館員の出版物(資料8)等



国立民族学博物館

懇談会についてのお問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話 :06-6878-8560(直通) FAX:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp